

平成27年12月25日提出

教育委員会議 議題2 別冊

第3次広島市食育推進計画

中間まとめ

平成27年（2015年）11月

広島市食育推進会議

第3次広島市食育推進計画 中間まとめ 目次

第1	計画の基本的事項	1
1	計画策定の趣旨	
2	計画の位置付け	
3	計画期間	
第2	食をめぐる現状と課題	3
1	これまでの取組状況	
2	現況・課題	
第3	今後の展開	7
1	基本方針	
2	計画の推進	
	(1) 「わ食（和食・輪食・環食）」の推進	
	(2) 生涯にわたる間断ない食育の推進	
	(3) 官民一体となった食育の推進	
3	具体的な取組	
	(1) 和食の推進	
	(2) 輪食の推進	
	(3) 環食の推進	
	(4) 性別、年代別等の課題やニーズに応じた取組の推進	
	(5) 食育推進の担い手間の相互連携、官民連携の一層の充実	

資料編 ※現在作成中

- 1 用語の説明（本文中に*を付した用語）
- 2 第2次広島市食育推進計画の指標目標の推移
- 3 平成27年度（2015年度）食育に関するアンケート調査結果（抜粋）
- 4 広島市食育推進会議条例・委員名簿
- 5 第3次広島市食育推進計画の策定の経過

第1 計画の基本的事項

1 計画策定の趣旨

- 広島市では、「食育基本法」、「食育推進基本計画」に基づき、広島市食育推進会議を設置し、「広島市食育推進計画」（以下「第1次計画」という。）及び「第2次広島市食育推進計画」（以下「第2次計画」という。）を策定し、「食を通じて『健やかな体』と『豊かな心』を育みます。」を基本理念とし、「健全な食生活を実践する市民を増やす」ことを目標に掲げ食育推進に取り組んできました。
- その結果、第1次計画では、市民に食育の認知度が高まり、食育推進への気運の醸成、食育推進体制の基盤の構築を進めることができました。
- また、第2次計画では、様々な食育推進の担い手による主体的な取組や、担い手間の連携・協力による事業展開などが図られつつあります。
- 一方で、少子高齢化が急速に進展し、健康寿命の延伸が重要課題となる中、「健全な食生活を実践する市民の割合」は、平成27年5月現在で約66%であり、未だ目標の80%以上に到達できていません。
- 近年では、世帯構造の変化や生活の多様化により、個人や家庭における生活環境や経済状況等の違いが、食や食育に与える影響についても看過できません。
- そのような状況を踏まえ、引き続き、生涯を通じた食育を一層推進するとともに、多様な暮らしに対応した食育の充実を目指す必要があります。
- そこで、本市のこれまでの食育の成果と課題を整理するとともに、食育をめぐる様々な状況を見据えながら、より実効性ある食育推進を計画的かつ総合的に推進するために「第3次広島市食育推進計画」（以下「第3次計画」という。）を策定します。

2 計画の位置付け

- 食育基本法第18条第1項に規定する「市町村食育推進計画」として位置付け、本市の既存の関連計画と整合を取りながら進めます。とりわけ、「健康寿命の延伸」が本市はもとより国においても重要課題となっていることから、広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21(第2次)」との一体的な取組を進めるなど、効果的な推進を工夫します。

<本市の関連計画> ※〔 〕内は計画期間

【健康福祉局】

- 広島市健康づくり計画「元気じゃけんひろしま21(第2次)」〔平成25年度～34年度〕
- 広島市食品衛生監視指導計画〔毎年度策定〕

【こども未来局】

- 広島市子ども・子育て支援事業計画〔平成27年度～31年度〕

【環境局】

- 広島市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画〔平成27年度～36年度〕

【経済観光局】

- 広島市食料・農業・農村ビジョン〔平成18年度～27年度〕
- 広島市水産振興基本計画〔平成22年度～32年度〕

【教育委員会】

- 広島市教育振興基本計画〔平成22年度～32年度〕

3 計画期間

- 国の第3次食育推進基本計画と同じく、平成28年度から平成32年度までの5年間とし、目標や施策展開等、国との一定の整合を図ることで効果的に取組を進めます。

年	H17	H18	H19		H23		H25		H28	H29	H30	H31	H32
広島市の取組			●H19.7月広島市食育推進会議設置 (条例設置)										
			広島市食育推進計画 (H19～H22年度)		第2次広島市食育推進計画 (H23～H27年度)			第3次広島市食育推進計画 (H28～H32年度)					
国の動向			●H17.7月食育基本法施行 食育推進基本計画 (H18～22年度)		第2次食育推進基本計画 (H23～27年度)			第3次食育推進基本計画 (H28～32年度)					

第2 食をめぐる現状と課題

1 これまでの取組状況 2 現況・課題

第2 食をめぐる現状と課題

1 これまでの取組状況

- 第2次計画では、第1次計画の取組を基盤に次のように食育を推進することにしました。
 - ・「食と健康」「食と生活」「食と地域」の3つの視点から重点課題を掲げ、推進する。
 - ・性別、年齢別、世帯構成別等の課題やニーズを踏まえる。
 - ・食育推進の担い手の幅広い参加のもと、本市の地域性、特性を生かした広島らしい食育の推進に努める。
- そして、こうした取組の方向性を明らかにし、効果的に推進するために、10の重点プログラムを掲げました。

【重点プログラム一覧】

〔重点課題の解決に向けた重点プログラム〕

視点	重点プログラム	事業概要
食と健康 食と生活	1 わ食の日事業	毎月19日（食育の日）を「わ食の日」として定め、次の3つの「わ食」の普及啓発を行う。 ○ 和食（栄養バランスのとれた日本型食生活） ○ 輪食（食卓を囲む家族の団らん） ○ 環食（環境に配慮した食生活）
食と健康	2 食の安全・安心推進事業	安全・安心な食生活の推進に向けた意識啓発や知識の普及など、食の安全に対する不安の解消に向けた取組を進めるとともに、食品の生産・加工・販売に関する理解促進を図る。
食と健康	3 朝ごはん キャンペーン事業	朝食の摂取率向上と内容の充実に向けて、朝食の大切さを普及啓発する様々な取組を実施する。
	4 <small>か</small> 噛ミン ^{さんまる} グ30運動の推進	「ひとくち30回以上かむこと」を目標に、「よくかんで味わって食べることの大切さ」を周知するとともに、ライフステージに応じた「食べ方」への支援を行う。
食と生活	5 食と農と水産の 体験活動推進事業	農林水産業の体験活動の機会の提供に努めるとともに、開催情報等を、性別、年齢別のニーズを踏まえながら、市民にわかりやすく情報提供する。
食と地域	6 つなぐ・つながる 地産地消推進事業	地場産物を活用した給食献立の実施の促進に向けて、市場や関係機関との連携強化などの取組を行う。 また、各種イベントの活用、生産者と消費者の交流、地元水産物を使った料理教室の開催など、地産地消の一層の推進に向けて様々な取組を行う。

〔年齢別等の課題に対応するための重点プログラム〕

重点プログラム	事業概要
7 若者世代のための食育啓発事業	20～30歳代を中心とする若者に対し、望ましい食習慣の形成や食に関する自己管理能力の育成を図るための具体的な取組を検討し、順次実施する。

第2 食をめぐる現状と課題

1 これまでの取組状況 2 現況・課題

重点プログラム		事業概要
8	食を通じてみんなで育てよう ひろしまっ子事業	学校・幼稚園・保育園・家庭・地域社会等が連携し、幼児期から学童期にわたる子どもの発達段階に応じた取組を継続的に行う。また、家庭においては、家族全員、特に男性の食育への参画を推進する。

〔食育推進の担い手の取組及び連携・協力の促進のための重点プログラム〕

重点プログラム		事業概要
9	ひろしま食育ネットワーク事業	ひろしま食育ネットワークの更なる拡大を図るとともに、参加企業・団体等各々の特性を生かした主体的な取組の促進と、相互連携の強化を図る。

〔県や近隣市町との効果的な連携のための重点プログラム〕

重点プログラム		事業概要
10	広域連携による食育推進検討事業	県や近隣市町との広域的な情報共有や、連携した取組のあり方について検討し、できることから順次実施する。

- これらの重点プログラムを展開する中で、様々な食育推進の担い手が主体的に取組を行い、多様な形で食育が推進されました。ひろしま食育ネットワーク参加団体(市の食育推進に賛同し主体的に取組を進める企業・団体)の拡大もそのひとつの表れであると捉えています。(平成22年度末69団体→平成27年度6月末102団体)
- また、食育推進の担い手同士が連携した食育活動も展開されるようになりました。例えば、重点プログラム「若者世代のための食育啓発事業」においては、企業・大学(学生)・行政が連携して取組を進め、成果を上げています。
- さらに、こうした食育の取組をはじめ食育にかかる様々な情報を、市民に対し発信し、共有するためのツールとして広島市食育推進会議のフェイスブックを立ち上げるなどの取組も順次進めています。

2 現況・課題

(1) 「取組を評価するための指標」の達成状況

- 第2次計画では、取組を評価するための指標と目標数値を設定し、平成27年度末までに目標を達成することを目指して、本市の食育を推進してきました。
- これらについては、「食育に関する調査」や事業実績等により評価を行いました。その結果は、次のとおりです。

重点プログラム	指標	目標数値	結果数値 (H27年度)	調査結果の概要
わ食の日事業	「和食」の実践度	80%以上	69.6%	・30歳代男性、20歳代女性、ひとり暮らし世帯で実践度が低い。
	「輪食」の実践度	80%以上	70.5%	・20歳代男女、ひとり暮らし世帯で実践度が低い。
	「環食」の実践度	80%以上	78.6%	・30歳代男性、ひとり暮らし世帯で実践度が低い。

第2 食をめぐる現状と課題

1 これまでの取組状況 2 現況・課題

重点プログラム	指標		目標数値	結果数値 (H27年度)	調査結果の概要
食の安全・安心推進事業	衛生に関する実践度		90%以上	94.1%	<ul style="list-style-type: none"> 15～19歳男性のみ実践度が低い。 世帯構成ごとの差はなく、全て9割以上と高い割合。
朝ごはんキャンペーン事業	朝食の摂取状況	20歳代男性	85%以上	76.5%	<ul style="list-style-type: none"> 30歳代男性、20歳代女性の喫食率が低い。 世帯構成ごとの差はなく、全て8割以上と高い割合。
		30歳代男性	85%以上	62.5%	
噛ミング30運動の推進	よく噛むことの実践度		80%以上	58.1%	<ul style="list-style-type: none"> 30歳代男性、50歳代女性、二世帯世帯で実践度が低い。
食と農と水産の体験活動推進事業	農林水産業の体験交流人口		106万人	70万人	
つなぐ・つながる地産地消推進事業	学校給食における地場産物の使用割合		30%以上	36.5%	
	「ひろしまそだち」を購入したことがある世帯の割合		70%	67.2%	

※二世帯世帯は、18歳未満の子どものいる世帯（「平成27年度 食育に関する調査」結果より抜粋）

- さらに、第2次計画の目標である「健全な食生活を実践する市民を増やす」についての指標と目標数値、それに対する結果数値は次のとおりです。

（第2次計画の目標「健全な食生活を実践する市民を増やす」）

指標	目標数値	結果数値 (H27年度)	調査結果の概要
健全な食生活の実践度	80%以上	66.2%	<ul style="list-style-type: none"> 男性 59.7%、女性 72.5%（男女差 12.8ポイント） 男女とも30歳代の割合が低い。（男性 49.9%、女性 61.0%） ひとり暮らし世帯(51.8%)で最も割合が低い。

- これらの結果から、本市の食育については、第2次計画策定時以降、前進しているものの、市民の実践度向上に繋がる取組の一層の工夫や充実が必要と考えられます。
- また、性別では「男性」、年代別では「20歳代、30歳代を中心とした若い世代」、世帯構成別では「ひとり暮らし」が低調という結果になっており、これは第2次計画策定時と同じ状況にあります。

(2) 「ふだんの食生活で心がけていること」の把握（「食育に関する調査」結果による）

- 食生活についての市民の関心や意識、実践状況等を把握するため、「食育に関する調査」の調査項目である「ふだん食生活で心がけていること」の選択肢の回答結果を、3つのわ食（和食・輪食・環食）の視点で分類・整理し、今後の推進上の課題の把握を行いました。

「ふだんの食生活で心がけていること」（「食育に関する調査」結果による）

わ食	選択肢（※1）	結果数値 (H27年度)	調査結果の概要(性別・年代別等状況)
和食	栄養バランスに気をつける	71.9%	<ul style="list-style-type: none"> いずれも男性の実践度が低調。 20歳代、30歳代男性が特に低い。 規則正しく食べることへの意識は、ひとり暮らし、こどものいる世帯が低い。
	規則正しく食べる	55.0%	

第2 食をめぐる現状と課題

1 これまでの取組状況 2 現況・課題

輪食	食事の前後にあいさつをする	40.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれも男性の実践度が低調。 ・あいさつについては、60歳以上の男性、感謝への意識については、20歳代男性で特に低い。 ・行事食や郷土料理への意識は、全年代で低く、世帯構成ごとの差はなく全ての世帯で低い。
	食材や作った人に感謝して食べる	29.5%	
	行事食を食べる	17.4%	
	広島郷土料理を食べる	5.1%	
環食	食材を無駄なく使う	43.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ残さないことへの意識以外は、いずれも男性の実践度が低調。 ・食材を無駄なく使うこと、旬の食材、地産地消への意識の全てにおいて30歳代男性が特に低い。 ・地産地消の意識は、子どものいる世帯が低い。
	食べ残さない	67.4%	
	旬の食材を食べる	50.4%	
	県内産や市内産の食材を食べる	22.2%	

※1「食育に関する調査」項目の設問13「ふだんの食生活で心がけていること」の選択肢で、複数回答可としている。

※同様の調査項目を設定した平成25年度の間評時の調査結果も参考として記載している。

※網掛け部分は、50%以下の項目である。

- 「栄養バランスに気をつける」「食べ残さない」など、実践している人の割合が70%前後の項目もありますが、その他の項目の多くは50%未満と低調です。
- また、この調査でも、性別では「男性」、年代別では「20歳代、30歳代を中心とした若い世代」が低調です。
- 全体的に低調な「行事食を食べる」「郷土料理を食べる」「県内産や市内産の食材を食べる」については、市民全体への意識づけや実践に繋がる具体的な取組が必要です。特に若い世代に対しては、日本の食文化、広島郷土料理の継承の観点からも積極的に働きかける必要があります。

第3 今後の展開

第3次計画では、第2次計画の基本方針を引き続き継続し、これまでの取組を基盤にしつつ、本市の現状と課題を踏まえて取組の重点化を図り、総合的かつ計画的に食育を推進します。

1 基本方針

(1) 基本理念

食を通じて「健やかな体」と「豊かな心」を育みます。

(2) 目標

健全な食生活を実践する市民を増やします。

- 基本理念の「食を通じて『健やかな体』と『豊かな心』を育む」ためには、健全な食生活を実践していくことが必要です。
- 食育基本法の前文においては、「食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるべきもの」であり「健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている」とうたわれています。
- 市民一人一人が、生涯にわたって健全な食生活が実現できるようにするためには、家庭、学校、保育園、地域その他のあらゆる機会や場所において、様々な食育推進の担い手により、多面的に食育の取組が図られる必要があります。
- さらに、食育推進の担い手同士が、その特性や能力を生かしつつ、密接に連携・協力して、緊密なネットワークを築いていくことは、食育に関する施策の実効性を高めることはもちろん、「食」や「食育」を契機とした地域交流や、地域経済の活性化など、まちづくりにもつながっていきます。
- こうしたことから、本市においては、引き続き「食育で人づくり・まちづくり」をキャッチフレーズに、広島の現状や地域性を踏まえ「健全な食生活を実践する市民を増やす」ための食育の取組を進めます。

(3) 評価指標

「健全な食生活を実践する市民の割合」

現状値（平成27年度）：66.2%

目標値（平成32年度）：80%以上

「健全な食生活」とは・・・

- ・規則正しく食事をする
 - ・栄養面でバランスがとれている
 - ・安全面を考慮する
 - ・無駄な食べ残しや廃棄をしない
 - ・食卓を囲んで家族と一緒に食事をする
- などの望ましい姿の食生活のことです。

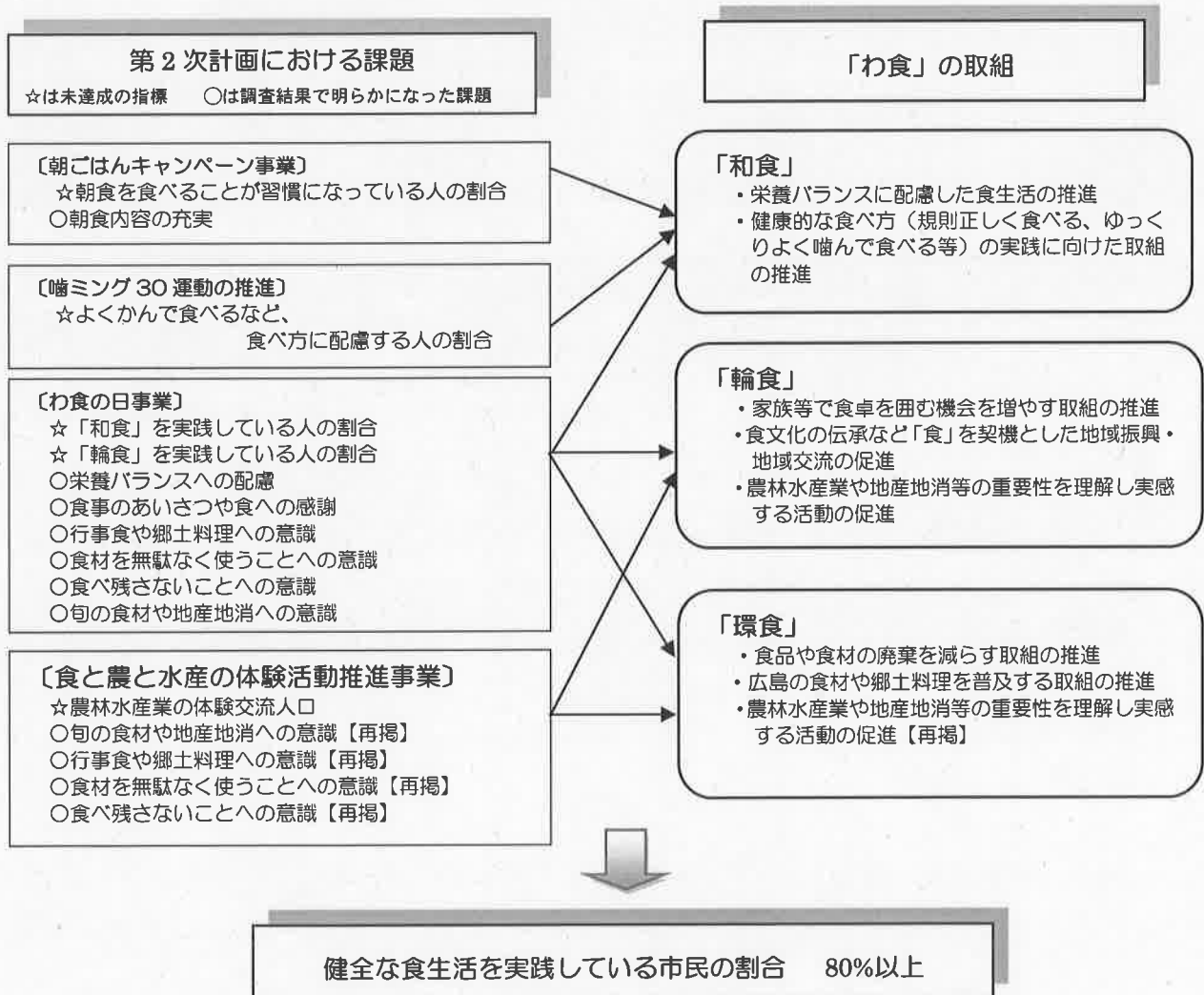
2 計画の推進

次の(1)～(3)を基本的な考え方として推進します。また、推進にあたっては、指標及び目標数値を設定するとともに、主要な取組として重点プログラムを掲げます。

(1) わ食（和食・輪食・環食）の推進

- 本市では、第1次計画以来、「わ食（和食・輪食・環食）」の取組を進めてきました。この「わ食」は、本市食育の基本理念「『健やかな体』と『豊かな心』を育む」の実現に向けた本市独自の取組であり、健全な食生活を進める上での基本的な考え方でもあります。
- また、これまで明らかになった課題を「わ食（和食・輪食・環食）」の観点から整理し、「わ食」の取組として一体的に推進することで、効果的な取組が期待できます。
- そこで、第3次計画においては、「わ食」の取組に重点化して取組を進めることで、本市食育における課題解決を図ります。
- 取組にあたっては、「和食」「輪食」「環食」のそれぞれの視点から目指す方向を明確にするとともに、指標及び目標数値を設定して施策を展開します。

【第2次計画における課題と今後の「わ食」の取組との関連】



(2) 生涯にわたる間断ない食育の推進

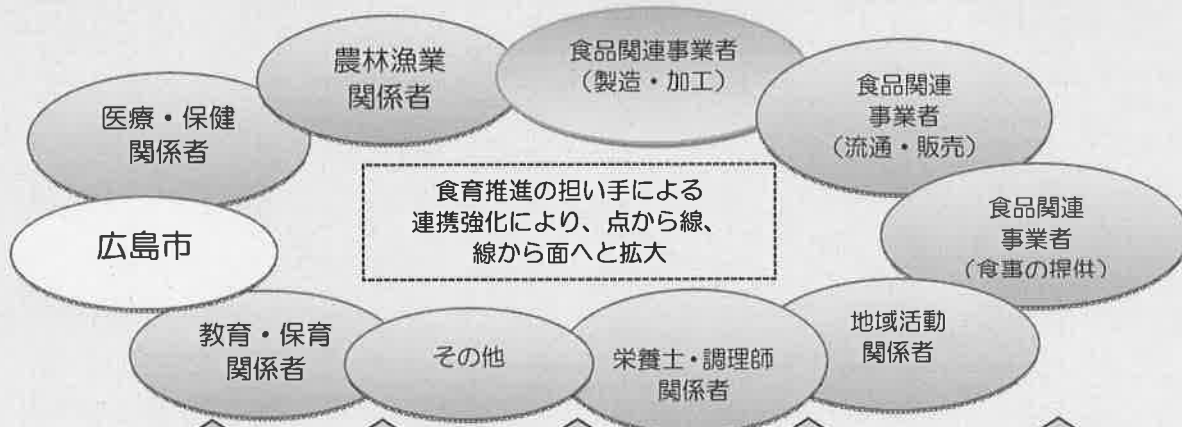
- 取組の推進にあたっては、「食育に関する調査」で明らかになった性別、年代別、世帯構成別等の課題を踏まえて具体策を検討し、乳幼児から高齢者に至るまで、様々な機会、場を捉えて生涯にわたる間断ない食育の推進に取り組みます。
- 特に、食育にかかる様々な実践度が低調な「男性」及び「20歳代、30歳代を中心とした若い世代」については、積極的な働きかけを行います。
- また、次代を担う子どもへの食育が重要であることと同時に、子どもへの食育が家庭にもたらす効果も大いに期待できることから、学校や幼稚園・保育園では、引き続き、教育・保育の様々な機会を捉え積極的に食育を推進します。

(3) 官民一体となった効果的な食育の推進

- 本市の設置したひろしま食育ネットワークには、様々な食育推進の担い手が参画し、主体的に食育を推進しています。また、こうした担い手同士が各々の特性や能力を生かして連携・協力し、効果的に食育の活動を展開する事例も生まれています。
- 今後もこうした取組を継承するとともにさらに拡大・発展させ、官民一体となって効果的に食育を推進します。
- また、県や広島広域都市圏内市町との情報共有を一層促進するとともに、食育の様々な取組について、できることから連携して取り組みます。

【計画の推進体制のイメージ】

【ひろしま食育ネットワーク参加団体】 本市の計画に賛同し、主体的に食育の取組を進める企業や団体



広島県

【広島広域都市圏】 広島市都心部から60kmの圏内市町 (200万人広島都市圏構想の実現)

広島市、呉市、竹原市、三原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田市、北広島町、大崎上島町、世羅町、岩国市、柳井市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町及び平生町

3 具体的な取組

(1) 和食の推進

① 目指す方向

栄養バランスのとれた日本型食生活の推進

日本が世界有数の長寿国である理由は、日本型食生活にあるとも言われています。本市を進める「和食」とは、この日本型食生活を意味します。和食の推進により、栄養バランスや健康的な食べ方について一層の意識啓発を進めるとともに、日々の主体的な実践につながるよう取組を進めます。

② 主な施策展開

ア 栄養バランスに配慮した食生活の推進

栄養バランスのとれた「和食」に関する情報提供を行うとともに、食品関連事業者をはじめ様々な食育推進の担い手と連携し、中食・外食もふくめて栄養バランスのよい和食をとるための環境整備に努めます。

また、これまでの取組で課題となっている「朝食における食事内容の充実」についても、和食推進の一環として積極的に取り組みます。特に、朝食摂取率が低い若い世代(20歳代及び30歳代)に対しては、朝食の重要性の普及啓発を工夫するとともに、栄養バランスのとれた朝食をとりやすい環境づくりを推進します。

主な指標

「和食」を実践している人の割合【継続】

現状値（平成27年度）69.6%

目標値（平成32年度）80%以上

※「朝食内容(組み合わせ)」の指標を検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「わ食の日事業」

毎月19日(食育の日)の「わ食の日」の啓発とともに、3つのわ食(「和食」「輪食」「環食)」の実践に繋がる様々な取組を実施します。特に、朝食内容の充実を図るため、和食朝食を進める取組を実施します。

○和食 (栄養バランスのとれた日本型食生活)

○輪食 (食卓を囲む家族等との団らん)

○環食 (環境に配慮した食生活)

イ 健康的な食べ方の実践に向けた取組の推進

食生活においては、口腔機能の十分な発達と維持が大変重要であり、ゆっくりよくかんで食べることを習慣づける必要があります。

和食では、かみごたえのある伝統的な食材（大豆、こんぶ、いりこ等）を使うことが多いことから、「和食」の推進においては、よくかんで味わって食べることの効果について周知し、ゆっくりよくかむことへの意識づけや、そのための食事時間の確保についても啓発します。

推進にあたっては、学校や幼稚園・保育園における子どもへの指導を通して家庭への普及啓発を進め、歯科医師会、栄養士会等と連携し、効果的な普及啓発の場づくりに努めます。

主な指標

※検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「嚙ミング30運動の推進」

ひとくち30回以上かむことを目標に、「よくかんで味わって食べることの大切さ」を周知するとともに、ライフステージに応じた「食べ方」への支援を行います。

(2) 輪食の推進

① 目指す方向

食卓を囲む家族等との団らんの推進

家族で食卓を囲むことの楽しさや地域・コミュニティ(職場等)における食を通じた人との交流の大切さを啓発し、食べる喜びを実感できる取組を進めて、食を大切にす豊かな心を育みます。

② 主な施策展開

ア 家族等で食卓を囲む機会を増やす取組の推進

子どもがいる世帯に対して、食卓が子どもにとって家族の団らんの楽しさを実感する場であり、食事のマナーを学ぶ重要な場であることへの理解と啓発を図ります。

さらに、家族団らんの機会を増やすなど、企業等との協力により仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進に配慮した環境づくりを推進します。

主な指標

「輪食」を実践している人の割合【継続】

現状値(平成27年度) 70.5%

目標値(平成32年度) 80%以上

※検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「わ食の日事業」

毎月19日(食育の日)の「わ食の日」の啓発とともに、3つのわ食(「和食」「輪食」「環食)」の実践に繋がる様々な取組を実施します。特に、朝食内容の充実を図るため、和食朝食を進める取組を実施します。

- 和食 (栄養バランスのとれた日本型食生活)
- 輪食 (食卓を囲む家族等との団らん)
- 環食 (環境に配慮した食生活)

イ 食文化の伝承など「食」を契機とした地域振興・地域交流の促進

地域の祭礼行事等で食事を共にすることは、人々との絆を固める大切な機会であり、食文化伝承の場であることから、様々な行事やイベント等を活用し、広島郷土料理の普及啓発を図り、地域振興や地域交流の契機とするよう努めます。

主な指標

※検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「つなぐ・つながる地産地消推進事業」

地場産物を活用した給食献立の実施促進に向けて、市場や関係機関と連携強化した取組を実施します。また、各種イベントの活用、生産者と消費者の交流など、地産地消の一層の推進に向けた取組を行います。

ウ 農林水産業や地産地消等の重要性を理解し実感する活動の促進

農林水産業の重要性の理解や、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動の理解に向けた、体験活動の機会の提供に努めます。

主な指標

※検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「食と農と水産の体験活動事業」

農林水産業の体験活動の機会の提供を努めるとともに、開催情報等を、性別、年齢別のニーズを踏まえながら、市民に分かりやすく情報提供します。

(3) 環食の推進

① 目指す方向

環境に配慮した食生活の推進

生産から消費までの食の循環を意識し、食べ物や作り手に感謝し、食品ロスを減らす取組を推進するとともに、地場産の食材活用や郷土料理等について関心を高め、地産地消や食文化の伝承につなげていきます。

② 主な施策展開

ア 食品や食材の廃棄を減らす取組の推進

食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる人々に支えられていることへの理解を深め、作り手への感謝と食べ物を大切する観点から、エコクッキングの普及、食品の販売方法の工夫など、食品ロスを減らす取組を進めます。

主な指標

「環食」を実践している人の割合【継続】

現状値（平成27年度）78.6%

目標値（平成32年度）80%以上

※検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「わ食の日事業」

毎月19日（食育の日）の「わ食の日」の啓発とともに、3つのわ食（「和食」「輪食」「環食」）の実践に繋がる様々な取組を実施します。特に、朝食内容の充実を図るため、和食朝食を進める取組を実施します。

○和食（栄養バランスのとれた日本型食生活）

○輪食（食卓を囲む家族等との団らん）

○環食（環境に配慮した食生活）

イ 広島食材や郷土料理を普及する取組の推進

学校給食や保育園給食での地場産物を使った献立や郷土料理のレシピを*食育だよりに掲載するなど、保護者に対する啓発の工夫に努めます。

ひろしま食育ネットワーク等を活用し、様々な機会、場所において、広島食材や郷土料理、食文化などの普及や伝承に努めます。

主な指標

学校給食における地場産物の使用割合【継続】

現状値（平成27年度）36.5%

目標値（平成32年度）（国は30%以上を設定）

※検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「つなぐ・つながる地産地消推進事業」【再掲】

地場産物を活用した給食献立の実施促進に向けて、市場や関係機関と連携強化した取組を実施します。また、各種イベントの活用、生産者と消費者の交流など、地産地消の一層の推進に向けた取組を行います。

(4) 性別・年代別等の課題やニーズに応じた取組の推進

生涯にわたる間断ない食育の推進という観点から、すべての市民に対し食育を推進しますが、特に、食育への関心や食育に関する取組の実践度が低調であることが明らかになった「男性」や「20～30歳代の若い世代」「ひとり暮らし世帯」には、ニーズや興味・関心、生活や行動のパターンなどに応じた効果的な取組を積極的に展開します。

主な指標

朝食を食べることが習慣になっている若い世代の割合【継続】

現状値（平成27年度）20歳代男性 76.5% 30歳代男性 62.5%

目標値（平成32年度）85%以上（※国の目標値と整合）

※「男性の実践度」の指標を検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「男性のための食育推進事業」

男性への食育推進に向け、体験活動を中心に男性の興味・関心、ニーズに沿った内容の取組を実施します。

「若者世代のための食育啓発事業」

20～30歳代を中心とする若い世代に対し、朝食の大切さを啓発するとともに、望ましい食習慣の形成や食に関する自己管理能力の育成を図るための具体的な取組を順次実施します。

(5) 食育推進の担い手間の相互連携、官民連携の一層の充実

官民が連携した食育推進のより一層の充実を図るとともに、「ひろしま食育ネットワーク」参加団体の相互連携を強化し、本市の地域性、特性を生かした広島らしい食育を推進します。

また、県や広島広域都市圏内市町と食育にかかる情報等を共有し、具体的な取組についてもできることから連携して取り組みます。特に地産地消をはじめ食育にかかる取組については、広島広域都市圏内市町の連携強化を図ります。

主な指標

※検討中。市民意見等を踏まえ最終案に掲載。

主要な取組(重点プログラム)

「ひろしま食育ネットワーク連携事業」

参加企業・団体等の更なる拡大と相互連携の強化を図りつつ、官民一体となった取組を効果的に実施します。

また、県や広島広域都市圏内市町と情報を共有し、各種啓発活動や地産地消に関する取組を積極的に推進します。

資料編

※現在作成中

- 1 用語の説明(本文中に*を付した用語) ←現時点ではまだ*は付していません。
- 2 第2次広島市食育推進計画の指標目標の推移
- 3 平成27年度(2015年度)食育に関するアンケート調査結果(抜粋)
- 4 広島市食育推進会議条例・委員名簿
- 5 第3次広島市食育推進計画の策定の経過